

名古屋市電に会える"レトロでんしゃ館"

— 名古屋市 市電・地下鉄保存館 —

名古屋市の市電・地下鉄保存館は、1888（明治31）年から1974（昭和49）年まで77年間にわたって名古屋の街を走り続けた市電や1957（昭和32）年に開業した市営地下鉄の最初の電車「黄電」など時代を支えてきた貴重な車両を後世に残すとともに、車両とのふれあいを通じて公共交通機関の使命と役割をPRし、併せて市営交通の利用促進を図るため、2000（平成12）年6月1日に開館した。

所在地：日進市浅田町笹原30
 名古屋市交通局 日進工場北側
 開館時間：午前10時～午後4時（入場無料）
 休館日：水曜日（水曜日が休日の場合は、その直後の平日）・年末年始（12月29日から1月3日まで）
 ※状況により臨時休館あり
 アクセス：地下鉄鶴舞線「赤池」駅下車
 （2番出入口）徒歩約7分
 電話：052-807-7587
 F A X：052-807-1158



1400 型電車 （2015年撮影）

■技術の粋を集めた 1400 型（1427 号）

1937（昭和12）年に開催された「汎太平洋平和博覧会」の乗客輸送のため、「博覧会にふさわしい電車」を目指して当時の技術の粋を集めて製造された。曲線を使用した優美なスタイルを持ち、その後の名古屋市電の標準車両となった名車である。全75両が造られ、うち55両が市電廃止の1974（昭和49）年3月まで活躍した。

■めずらしい連接車・3000 型（3003 号）

大戦末期、軍需工業が盛んであった工業地域への工員を大量輸送するため、三つの台車に二つの車体を載せた「連接車」で、資材不足のなか10両が造られた。連接車は、このほか2600 型（15両）、2700 型（11両）が造られた。戦後は、朝のラッシュや団体輸送に使用された。



3000 型電車 （2015年撮影）



2000 型電車 （2015年撮影）

■無音電車・2000 型（2017 号）

名古屋市電で最後に製造された電車で、29両が造られた。騒音や振動を抑えた「無音電車」で当時の最新技術が採用され、スタイルも近代的で、技術は地下鉄100形（黄電）に生かされた。

（藤井 建）